

神社(祀られた神々)から見た港南の歴史考察

夫々の地域で祀られた神にはその神が選ばれた背景がある。農耕地域は五穀豊穡を願い、災害多発地では山・川など生活環境の災害鎮護を、あるいは為政者は一族の武運平安を願う。神社の創建時期と祀られた神々を見ることでその地域の歴史を垣間見ることが出来よう。

我が国は長い間神仏習合の時代があり、神社と寺は一体に運用されてきた。別当寺と呼ばれる寺院が神社の運営管理を担当し、神仏一体となって地域の生活と係わって来たであろう。ところが明治初期の神仏分離令により、また明治41年以降神社の統合が進められて地域ごとに代表神社に地域の神々を集められた。これらの動きは『港南の歴史』、『港南歴史散策テキスト(馬場久雄氏著)』、『港南の歴史と文化(伊藤武氏著)』に記されている。これらを参考に港南区の地域別に祀られた神々を整理し、歴史を覗いて見ようと思う。

- 神奈川県神社庁資料によれば、港南区には下表の8座の神社が登録されている。地域別にこれらの神社とその主祭神、及び合祀神を別紙に整理した。下表はその要約である。
 なお、神社欄の寺院は江戸時代までの別当寺を示し、村、字、戸数は江戸末期のものを記した。%は戸(字)数比。

国	郷	村	字数	戸数	神社[合祀社数]	祀られている神々からの考察	特記
武蔵国 74%	多々久	最戸	19	19	青木神社 ⁷	・南区の一部を含む広域の総社であった。 ・安房洲神社からの分祀による創建との説がある ・祀る神々は自然異変への畏敬や生活守護機能	多々久郷は前記2村の他、別所、中里、弘明寺、井土ヶ谷
		久保	19	24	自性院		
	上大岡	上大岡	12	51	鹿島神社 ⁸	・主祭神は藤原一族の守護神＝政治的意味 ・来名戸(岐)神はこの地が主要道の分岐点 ・海岸や河口に多い弁天(祭神は航海守護)は？	
	笹下	雑色	12	42	真光寺		
		松本	24	64	天照大神宮 ⁷	・天太玉命は忌部氏の祖神(当地区最古の神社か) (忌部氏は安房開発の後、南武蔵を開発) ・八幡と御霊は源氏系間宮氏の守護神	
		関	12	34	修験権現堂		
	日野	吉原	10	40	春日神社 ²²		・合祀社22は群を抜いて多い。 ・主祭神天児屋命は藤原(中臣)一族の祖神 ・諏訪の神建御名方を祀る意味は水対策か武運か ・金山彦は鉄関連集団がいた証拠
		金井	17	42	徳恩寺		
		宮下	26	34			
		宮ヶ谷	16	42			
相模国 26%	永谷	永谷上	11	50	天満宮 貞昌院	・永谷郷領主宅間上杉氏(関東管領の流れ)の氏族加護、領内安泰の願い ・八幡大神、白幡(源氏)、天神、武甕槌命などの神々に武士の姿が見えてくる(殿屋敷城塞) ・白山(菊理姫)に鍛冶職の集落があったか(芹が谷) ・港に多い巖島社(海・航海)がなぜここに？	今の上永谷、日限山丸山台地域
		永谷中	13	43	永谷 神明神社 ⁶		
	野庭	上野庭	26	39	般若寺	・臼居家の氏神が村の鎮守に。 ・陸軍地図には白旗社のみ。関城に近く、鎌倉期の武人達が白旗社を。主体の神明社は創建不詳	今の下永谷、東永谷 芹が谷地域
		野庭神社 浄念寺					
		下野庭	10	07	神明神社 ¹		

● 神社(祀られた神々)から見た港南区の歴史物語(仮説)

- (1) 古代、忌部氏は中臣氏と天皇家の神祭りの主導権を争い、破れて朝廷から去り地方へ。その一派が四国から房総に移り安房国を創り定着する(古語拾遺)。安房の忌部(斎部)氏はその後多摩・鶴見・大岡川流域を開発するが、その一部が笹下辺りに定住し、久良岐郡の中心の地に守護を願って安房洲神社を建てた。中臣(改名藤原)氏は神祭りのみでなく政治の中核を担い、一族が国司として各地に送られ、11~12世紀武蔵国の国司となり、自らの祖神、守護神を祀る春日・鹿島社を創建すると安房洲神社は衰退して行った。中世になり、笹下城構築以降は源氏系の間宮氏の統治下に武人好みの神々が祀られてきた。

なお、中臣・忌部両氏の祖神 天児屋命と天太玉命はニニギノ命の天孫降臨の際、随神に選ばれた5伴緒の2柱で共に神祭りを分掌した。天照の岩屋戸騒動でも祭りを主導している。



- (2) 鹿島社は久良岐の郡衙(宮郷)に近いが、春日社は武蔵国の辺境地である。辺境の地域(日野)には製鉄鍛冶(金山彦)の重要地もあり、交通の要所でもあったのであろうが、川の氾濫等水害の多い地でもあったことから国司藤原一族の守護神(建御雷命＝武の神であり雷など天変守護の神)を祀ると共に、水の神(竜神)を祀る諏訪神社から祭神(建御名方命＝諏訪上社の祭神)を勧請したのではなかろうか
- (3) 下永谷から芹が谷にかけて殿屋敷城塞(大津政久館)内に神明社、八幡社、稻荷社があった。政久が1557年に没すると、翌年神明社を村の鎮守に、八幡社は大津家の屋敷神に、稻荷社は独立社にそれぞれ役割を変えていった。疑問の残るのは下永谷地区にあったとされる巖島神社である。海辺や島に多い海路守護の神が何故この山間地にあったのか。長野・安曇野の穂高神社の祭神が海の神であることを想起させるが、こちらは海の民が翡翠を追って姫川を遡り、安曇野に定住した歴史がある。さて下永谷の海路守護の神はどこから来た誰が祀ったのか？